

AI (オートプシー・イメージング) 運用マニュアル

当直・総合救急センター運営委員会
安全管理室

オートプシー・イメージング (Autopsy imaging、以後 Ai) は、狭義では死亡時画像診断、広義では死亡時画像病理診断の事である。CT や MRI などによって撮影された死後画像 (Postmortem Imaging : PMI) により、死体にどのような器質的病変を生じているのかを診断する (狭義の Ai) ことによって、死亡時の病態把握、死因究明などを行うシステムである。当センターにおける AI とは、原則 CT 検査を指すこととし、以下にその詳細を定める。

- 1) 目的：死因や死亡時病態の特定と解剖の必要性を判断する
- 2) 適応：CPAOA 患者や救急外来死亡患者で、死因が特定できないもの
病棟急変等で、死因が特定できないもの
死因や死亡時病態が不明であり、主治医や安全管理室が必要と判断したもの
- 3) ご家族への IC
同意書は必要ないが、その旨家族へ説明した内容も診療録に記載すること
- 4) 施行結果
読影結果は診療録に記載し、患者家族へ説明した内容も診療録に記載すること
- 5) 画像確認 (再検討)
撮影後 1 週間以内に、AI 画像は放射線科専門医の読影を受けることとする。結果は、医療の質検証委員会が診療録とともにチェックし、必要があると判断されれば、デスクカンファレンスとして症例報告を主治医が中心となって行う。
医療の質検証委員会は、デスクカンファレンスの結果に対して、ご家族 (ご遺族) へ報告も検討する。
- 6) 台帳の作成
放射線科においてオーダーリングを利用して台帳を作成する。
- 7) 運用手順
 - ① AI が必要か否かの判断は、院内死亡を確認した医師集団の代表が最終判断をください。
(通常時間帯は総合救急センター担当医 or 主治医、時間外は責任当直医 or 主治医)
 - ② AI が必要と判断された場合は、医師はオーダーリングで AI をオーダーする。

- ③医師は放射線科に連絡し、撮影場所（中央 CTor 東館地下 CT）と搬送のタイミングの指示を待つ。
- ④撮影準備として、出血や体液に流出が予測される場合は、ご遺体の下に防水シートを引くこととし、通常時間帯は特にご遺体に酸素マスクをかぶせるなどカモフラージュをしてCT出しをすること。
- ⑤原則的にフィルムに現像しないため、医師はオーダーリング端末で画像を見ること。
- ⑥警察等からの要望があれば、紙ベースで印刷し提供する。正式な依頼があればフィルム印刷やDVDへの焼付けは有料で可能である。（DVD：1枚1000円、フィルム1枚1000円、申し込みはデータ抽出申請書で）
- ⑦オーダーリングで申し込むことにより、患者請求ができない体制が確保される。

8) マニュアルの見直しは、当直・総合救急センター運営委員会、安全管理室が行うこととする。

附記

1. このマニュアルは、平成22年4月27日より実施する。
2. このマニュアル（改定）は、平成24年6月1日より実施する。
3. このマニュアル（改定）は、平成26年12月12日より実施する。